

## 会議録

会議名 (付属機関等名)		川西市立総合医療センター市民モニターハイブリッド会議(令和7年度 第2回)		
事務局(担当課)		健康医療部 保健・医療政策課		
開催日時		令和7年12月24日(水) 午前10時00分～午前11時30分		
開催場所		川西市立総合医療センター 1F ガーデンホール		
出席者	委員	熊手会長 酒井副会長 中江委員 鈴木委員 永田委員 江川委員 篠木委員		
	その他	指定管理者 川西市立総合医療センター 安島経営企画部長 小田事務長 松永事務長補佐(川西市研修派遣) 内橋事務長補佐 水澤医事課長 川勝医事課長		
	事務局	健康医療部 松本部長 今井副部長 保健・医療政策課 日浦課長補佐 藤本 井上		
傍聴の可否		不可	傍聴者数	—
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由		当会議の意見交換などの内容を公にすることにより、率直な意見の交換が不当に損なわれる恐れがあるため、傍聴を不可とする。		
会議次第		1. 開会 2. 開会あいさつ 3. 議事 (1)川西市立総合医療センター全般について (2)その他 4. 閉会		
会議結果		別紙審議経過のとおり(要旨)		

# 審議経過

## 1. 開会

## 2. 開会あいさつ

部長あいさつ

気温差が激しい日々が続いている。現在インフルエンザなどが流行しているが、年末年始に向けて収束して欲しいと願っている。今年の7月に兵庫県全域で#7119(救急安心センターひょうご)という事業が開始したため、受診の相談等に活用いただくようコミュニティ等で周知していただきたい。今回の会議では、今年度前半の状況を報告する。委員の方々から忌憚のないご意見をたまわりたい。

## 3. 議事

### (1)川西市立総合医療センター全般について

施設見学の際に使用する病院紹介動画を鑑賞

続いて、資料1「一日平均患者数の推移」、資料2「救急運営状況」に沿って、指定管理者から病院現状を説明後、意見交換

指定管理者:(資料1について)今回は令和7年4月から10月までの報告となる。入院患者数は、4月から7月まで前年度と同水準で推移していたが、7月以降は約400人で推移しており、前年度実績を大きく上回る状況である。また、経営強化プランの目標値である370人を達成している。これは、病院長を中心としたクリニカルパス(診療や治療の流れを疾患ごとにスケジュール化し、標準化された医療を提供するための計画書)の運用とDPC(急性期入院医療において、診断病名と治療の内容を包括的に評価した1日あたりの定額費用と手術などの出来高費用を組み合わせて医療費を計算する制度)を意識した入退院の促進の成果であると分析している。

外来患者数は、4月以降すべての月で前年度実績を上回り、10月までの平均は660.5人となり、経営強化プランの目標値である600人を達成している。

(資料2について)令和7年度における1月当たりの救急患者数は620.3人であり、前年度から11.6人増加している。このうち、川西救急からの患者数は448.1人であり、10.1人増加となっている。概ね70%以上が川西救急からの患者である。各月の救急患者数は、7月を除いては前年度を上回っている状況である。

ドクターカー出動件数は、前年度と比較してほぼ同水準で推移している。

救急応需率は、令和7年度全体で96.7%と、令和6年度の92.7%を上回っている結果である。近隣の他病院では、救急応需率は80%前後で推移している状況の中、市外救急についても90%を超えており、『断らない救急』を目指して職員が一丸となって取り組んだ成果であると考えられる。

委

員:開院してから3年が経過したが、現時点での改善点や課題は何か。

指定管理者:概ね想定通りに運営できている。ただし、救急等の受け入れ件数が増加していること、また、市民からの要望が多い手術件数を今後増加させたいと考えていることから、これらに対応するための医師や看護師等の職員の確保が課題であると考えている。

委 員:救急搬送患者で、最も遠方からの搬送はどこか。

指定管理者:直近では、尼崎市などが挙げられる。

委 員:受け入れた患者の手術が対応困難だった場合、どのような対応になるのか。

指定管理者:基本的には当院で手術可能な患者にご入院いただいている。ただし、入院加療中に新たな疾病が判明した場合など、総合医療センターでの手術が困難な場合には、他院への紹介を行う。主な紹介先は大学病院で、外部の医師を招いて総合医療センターで手術する場合もある。

委 員:周囲の苦情は減少しており、前向きなイメージに変わったと感じる。個人的な意見として院内の景観が似通っているため、初めて来院する人は迷いやすいと思う。何か対策は行っているか。

指定管理者:お問い合わせが多かったため、標示を増設した。また、適宜職員が巡回を行い案内をしているが、十分ではないと認識している。

委 員:救急応需率が素晴らしい。ただし、その分職員への負担が心配である。働き方改革などは対応しているのか。

指定管理者:タスクシェアリングなどで対応しているほか、現在、生成AIの普及が目覚ましく、事務作業の時間削減に大きく貢献できると考えており、導入を予定している。

委 員:最近利用する機会があったが、スピードに診療が終わり、待ち時間などの不満はなかった。接遇も丁寧で申し分ない。今回、会議冒頭の紹介動画で建物の構造を知り、トリップルクロスなどが非常に工夫されていると感じた。今後については、職員の負担軽減にも目を向けてほしい。

委 員:月ごとの患者数の推移について、主な要因は?

指定管理者:季節的な要因が大きい。感染症の流行などは1~2ヶ月ずれることもあるが、概ね同様である。

委 員:総合医療センターは他市に自慢できるものであると感じている。開院からさまざまなことが改善され、職員も慣れてきているようで、この会議でも苦情等が減少してきた。資料を見ても成果が現れており、立派に経営されていると思う。これからも常に向上を目指して頑張っていただくことが、市民へのサービス向上につながると思う。

委 員:患者満足度調査は行っているか。

指定管理者:11月から1月にかけて調査を実施している。

委 員:次回、資料として提出してほしい。軌道に乗れば乗るほど、ここでの意見に真摯に向き合う

ことが重要だと思う。

(2)その他

「今後の会議内容」について、事務局から説明後、意見交換

事務局:今年の患者満足度調査は現在実施期間中であり、結果をお示しすることはできない。このように調査の実施や会議の開催時期が議題に影響を及ぼすため、患者満足度調査の結果については7月の会議で報告することとし、この時期には別の内容で会議を開催する予定である。来年度は検査室や救急科などのスポット的な施設見学も検討しているが、他に希望はあるか。

委員:リハビリ室を見学してみたい。

委員:総合医療センターでの人間ドックの導入を検討しているか。

指定管理者:総合医療センターは急性期病院であるため、人間ドックの導入は検討していない。ただし、第二協立病院で行っている。総合医療センターに問い合わせがあれば、そちらを案内している。

事務局:市の健診としての人間ドックは保健センターで実施している。

委員:他市の病院の建て替え時期に患者が流れてくることはあるのか。

指定管理者:近畿中央病院と市立伊丹病院の合併に先立ち、来年、近畿中央病院が閉院するため、一部影響を想定しているが、基本的には市立伊丹病院で受け入れる予定である。」

委員:公立病院の赤字が問題になっているが、現在は経営も安定しており、安心している。昔と比べ、閉院する病院が多くなっており、経営がいかに大変であるかが分かる。利益と公的サービスの維持は難しいが、市民の要望を取り入れながら経営を頑張っていただきたい。

事務局:指定管理者制度を導入しているため、病院の経営が直接市の財政に影響を及ぼすことはないが、順調に経営を行っていただきたい。

4. 閉会